

関西電力の電気料金再値上げ申請に係る意見、質問

2015 年 2 月 2 日

全大阪消費者団体連絡会

事務局長 飯田秀男

I. 「経営効率化の取組みについて」（平成 27 年 1 月 21 日）資料 7-1 の内容に関する質問

- ① 平成 25 年度の効率化計画が 1,253 億円であったこと、2012 年（平成 24 年）11 月の申請原価の営業費用が 2 兆 6,182 億円であったことから逆算して、2013 年（平成 25 年）度の当初計画の営業費用を試算すると 2 兆 7,436 億円となります。これに、2012 年（平成 24 年）11 月に申請した事業報酬 1,356 億円、控除収益 441 億円を加減すると、総原価は 2 兆 8,350 億円となります。資料 7-1 の 3 には、効率化前費用が 3 兆 2,543 億円と表記されています。この差 4,193 億円はなぜ生じるのでしょうか。同様に、平成 26 年度の効率化前費用 3 兆 5,049 億円と試算値 2 兆 8,758 億円との差は 6,291 億円となります。この差はなぜ生じるのでしょうか。

II. 「料金算定の前提となる電力需要および供給電力量について」（平成 27 年 1 月 21 日）資料 7-3 の内容に関する質問

- ① 今回の前提需要 1,459 億 kWh に比べ、平成 26 年度供給計画の平成 27 年度想定需要は 1,413 億 kWh です。関西消費者団体連絡懇談会に関西電力が回答した平成 26 年度の販売電力量は 1,364 億 kWh まで落ち込んでいます。また、自由化部門の契約離脱状況の公表を求めた質問には、平成 25 年度までに 7,154 件、190 万 kw、平成 26 年度で 4,651 件、66 万 kw、累計で 11,805 件、256 万 kw と回答しています。こうした状況を鑑みれば、再値上げ後の販売電力量は大幅に落ち込むことが予想されます。それでも、前提需要の 1,459 億 kWh をもとに原価計画を組み立てる妥当性がどこにあるのか、甚だ疑問です。どう考えるのか、教えてください。